

総務省消防庁

第26回地方公共団体の危機管理に関する懇談会



「危機管理のオールハザード・アプローチ」

日本大学危機管理学部 福田 充

日時： 2020年12月11日(金) 15:00

会場： 全国都市会館

福田充研究室 E-mail: fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp

HP: <http://fukuda326.o.oo7.jp/>

Twitter: fukuda326

2020 Mitsuru Fukuda

福田充研究室の危機管理・調査研究の履歴（1995年～2020年）

- 1995年
阪神淡路大震災 現地調査
オウム地下鉄サリン事件 東京都民調査
- 1996年
災害警報実験研究／ラジオ(東海地震警報・毒ガス事故)
- 1997年
災害警報実験研究／テレビ(東海地震警報)
- 1998年
ドイツにおける緊急事態対処の現地調査
地下街・高層ビル等過密空間の地震対策調査
秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害 現地調査
- 1999年
JCO臨界事故 現地調査
那須集中豪雨災害 現地調査
大阪NTT回線事故の社会的影響に関する調査
2000年問題に関する研究
- 2000年
イギリスにおけるテロ対策ヒアリング調査
企業の地震防災対策と帰宅困難者問題に関する調査
- 2002年
社会安全・危機管理に対する意識と社会教育・マスコミ報道に関する調査研究
- 2003年
自治体への火山に関する地域防災計画調査
自治体への津波に関する地域防災計画調査

日本大学危機管理学部 教授
日本大学大学院新聞学研究科 教授
博士(政治学)

- 2004年
十勝沖地震津波 現地調査
新潟福島豪雨水害 現地調査
新潟県中越地震 現地調査
- 2005年
アメリカにおけるテロ対策研究 視察調査
JR尼崎事故(JR福知山線事故) 現地調査
福岡県西方沖地震 玄海島 現地調査
兵庫県豊岡水害 現地調査
和歌山県広川町津波防災政策 現地調査
- 2006年
原子力のリスク・コミュニケーション調査
- 2007年
能登半島地震 調査
原子力発電所職員に対するヒアリング・アンケート調査
- 2008年～2010年 米国在外研究
コロンビア大学戦争と平和研究所客員研究員
- 2011年
東日本大震災 現地調査(岩手・宮城・福島・茨城)
福島第一原発事故 現地調査
- 2012年
福島第一原発事故 アンケート調査
北朝鮮ミサイル発射実験問題 調査
熊本大水害 現地調査
- 2013年
.....

※以降省略

警察政策学会会員 テロ安保部会会員
日本政治学会会員
日本災害情報学会会員 など学会会員
内閣官房有識者会議委員
厚生労働省委員会委員、埼玉県国民保護委員など

現代は「リスク社会」

●社会を襲う多様な「危機」

- ・地震、津波、台風、豪雨、洪水など**自然災害**
- ・原発事故、交通機関事故など**大規模事故**
- ・殺人、誘拐、暴行、詐欺などの**犯罪**
- ・テロリズムやミサイルなど**国民保護事案**
- ・戦争、紛争、難民問題などの**国際安全保障**
- ・情報流出、サイバー攻撃など**情報セキュリティ**
- ・新型ウイルスや感染症による**パンデミック**

※「オールハザード・アプローチ」による「危機管理学」。

ベックの「再帰的近代化」論

『外界（神・自然）』を原因として発生したリスク

地震・台風・津波などの自然災害

新型コロナウイルスなどの感染症

農業・漁業などの不況

科学の構造と社会の構造にその原因を持つリスク

原発事故・航空機事故などの大規模事故

リーマンショックなどの金融危機・世界恐慌

ミサイル攻撃などによる戦争・紛争

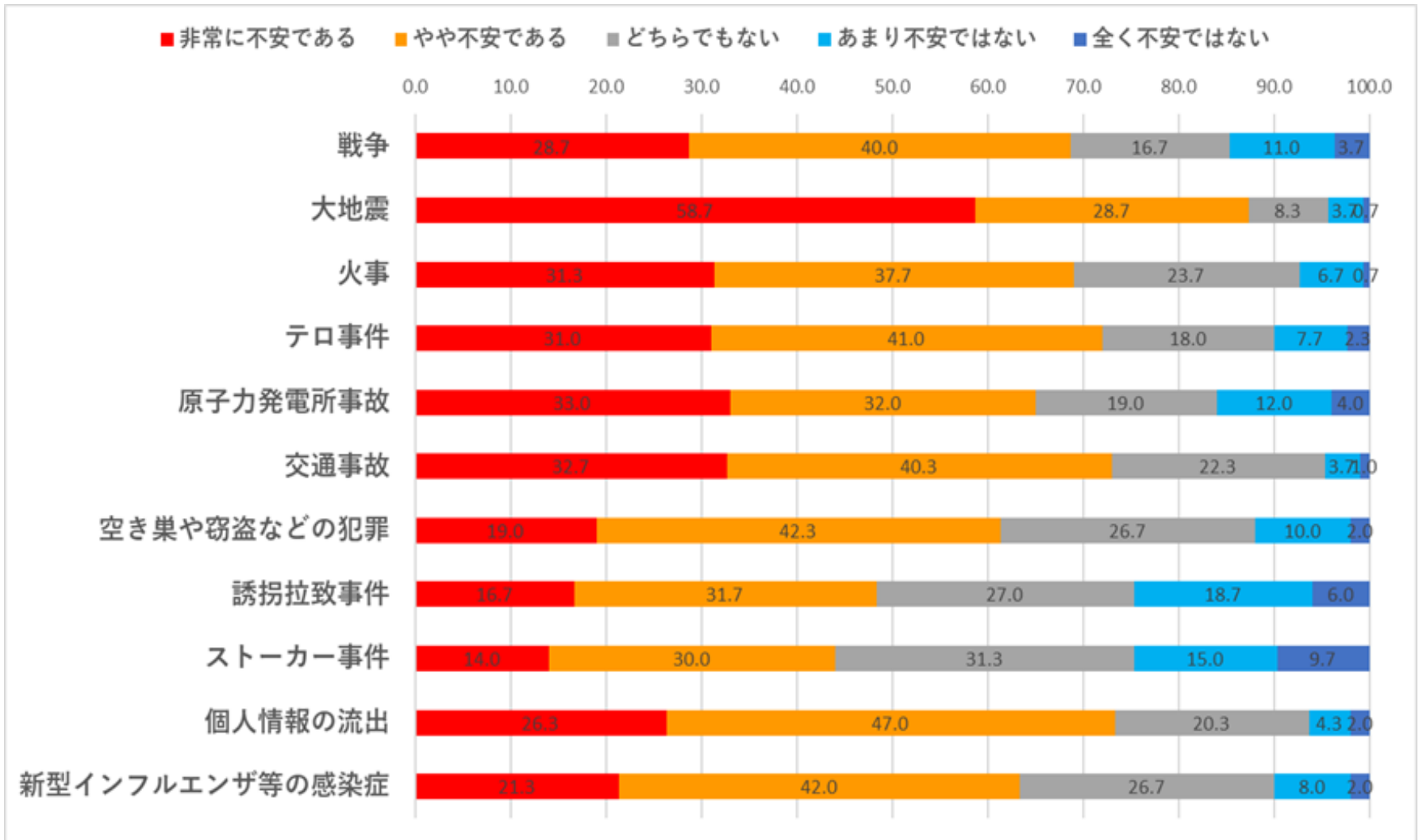
遺伝子工学による遺伝子操作のリスク

環境破壊・気候変動

※ リスクと危機管理がもたらす再帰的近代化

日本人のリスク不安

福田(2019)

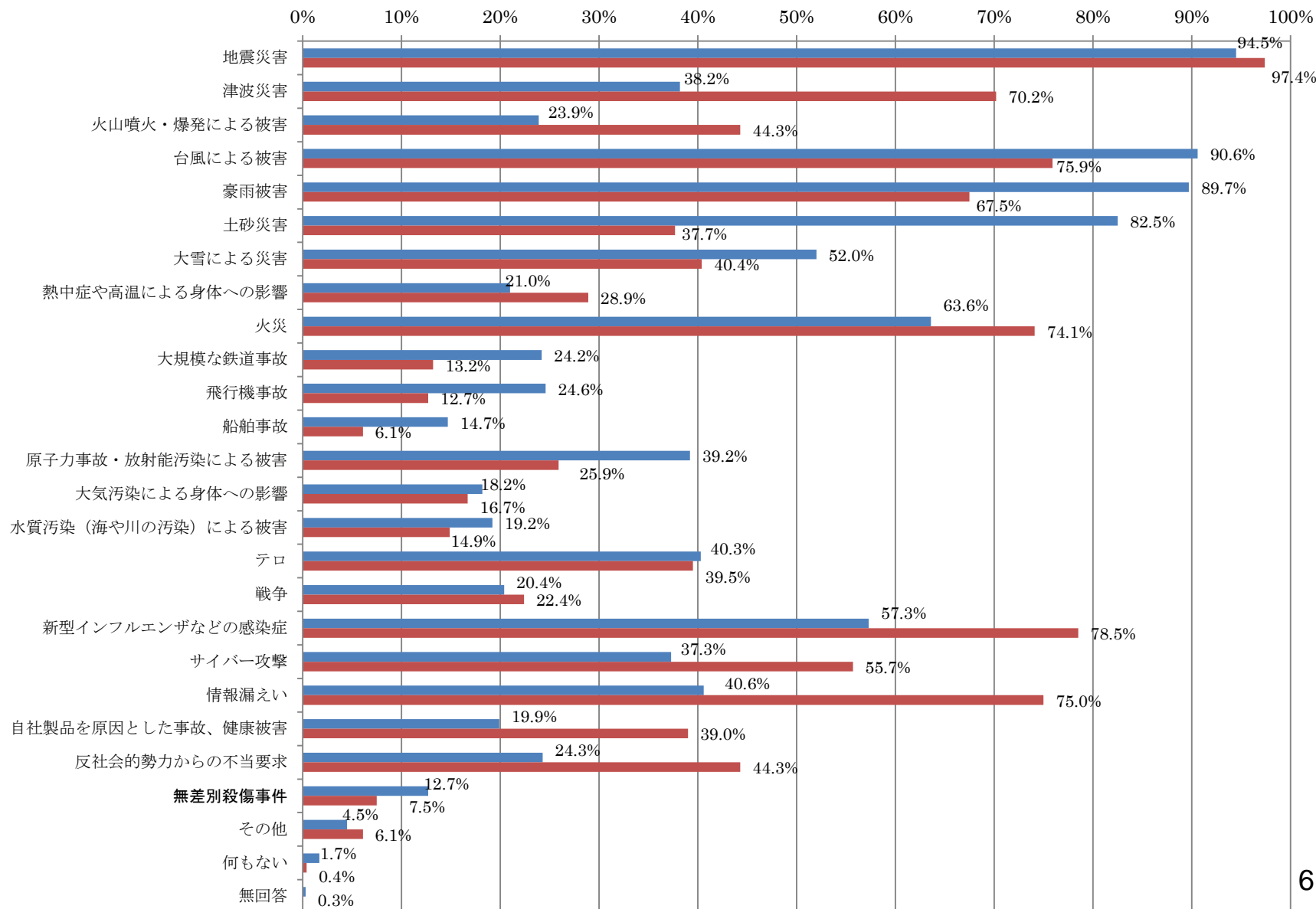


福田充(2020)「新型肺炎、緊急事態宣言を恐れるな」『Voice』2020年5月号, PHP.

※ オールハザード・アプローチの必要性

自治体・企業が想定している危機 福田ら(2016)

■自治体 ■企業



オールハザード・アプローチ

「危機管理学」の対象

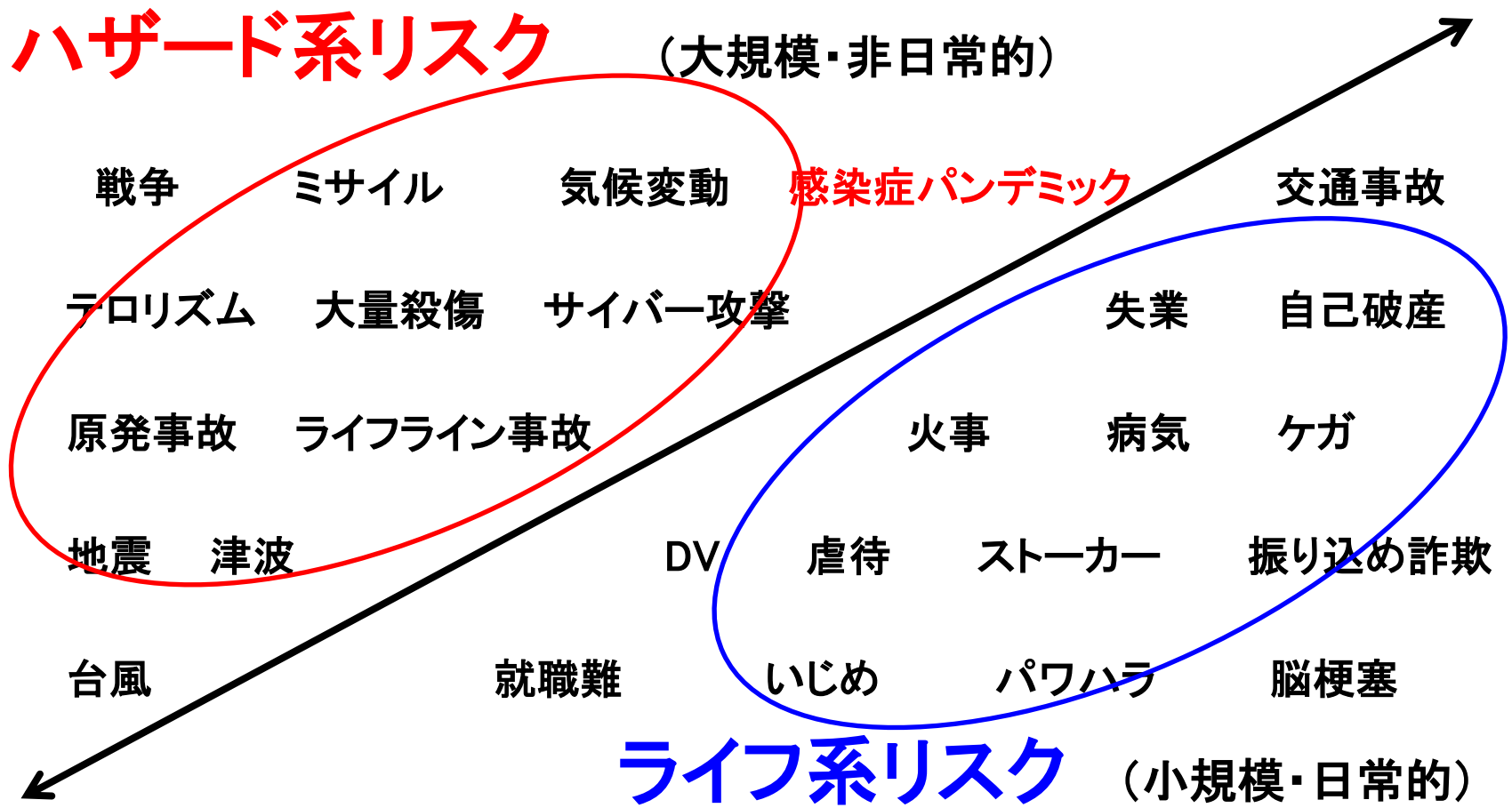
危機管理学＝オールハザード・アプローチ

All Hazard Approach

すべての 破滅的危機 を対象にする

地震や台風などの自然災害、犯罪やテロリズム、ミサイルや戦争・紛争、情報流出やサイバー攻撃、ネット炎上、感染症パンデミックなどすべての破滅的危機を対象にする危機管理学。

オールハザード・アプローチ 福田(2020)



危機管理学の構造 福田(2020)

		オールハザード・アプローチ							
		自然災害	大規模事故	犯罪	テロリズム	戦争紛争	環境問題	情報流出	パンデミック
学際的アプローチ	法学								
	政治学								
	社会学								
	経済学								
	心理学								
	都市工学								
	情報工学								
	土木工学								
	地質学								
	気象学								
	医学								

新型コロナウイルス 初の緊急事態宣言

2019年11月 中国武漢

謎の**新型肺炎** 発生

2020年1月

新型コロナウイルス 日本へ

3月 **新型インフルエンザ等**

対策特別措置法改正

4月8日 **緊急事態宣言** 発出

5月25日 **緊急事態宣言** 解除

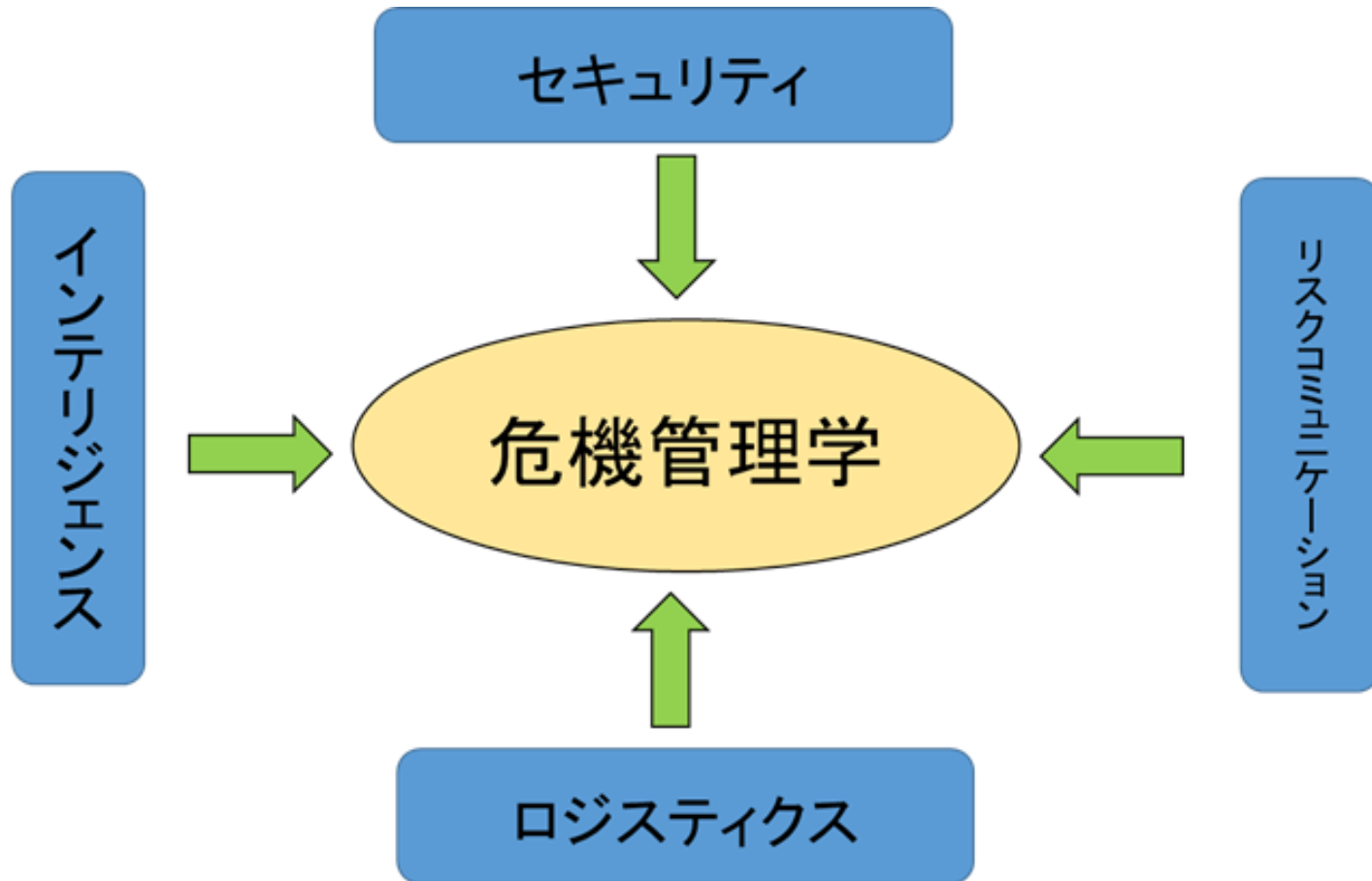
経済との両立 次のステージへ



新型インフルエンザ等 政府行動計画

- (1) 外国や国内での発生状況、動向、原因の情報収集
(インテリジェンス)
- (2) 感染症の蔓延防止に関する措置
(セキュリティ)
- (3) 医療の提供体制の確保のための総合調整
(ロジスティクス)
- (4) 地方自治体、指定公共機関、事業者、国民への情報提供
(リスクコミュニケーション)
- (5) 国民生活や国民経済の安定に関する措置
(セキュリティ・ロジスティクス)

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



「危機管理」とは？

①危機に関する情報を収集し、分析する。

= インテリジェンス

②危機の発生と拡大を食い止める対策をとる。

= セキュリティ

③危機への対処に必要な物資を準備し使う。

= ロジスティクス

④危機に関する情報を市民に伝え議論する。

= リスクコミュニケーション

①インテリジェンス

●ヒューミント、シギント、イミント、オシントの活用

・日本人のインテリジェンス軽視体質 『失敗の本質』

・日本人のインテリジェンスへの誤解

「インテリジェンス = 戦争・テロなど安全保障」

そうではない

自然災害にも、感染症パンデミックにも、
原発事故にも、サイバー攻撃にも、必要

※2019年11月、武漢の「謎の新型肺炎」以降、

現地の総領事館、厚労省は何をやっていたのか？

感染症対策のインテリジェンス活動の欠如

②セキュリティ

- ・出入国管理

ヒト・モノ・カネ・情報の移動の監視と管理

- ・防護機能

重要ライフライン・交通機関・ネットワーク

- ・セキュリティの多様化

経済安全保障、エネルギー安全保障、国土安全保障、
人間の安全保障、感染症安全保障

※自然災害にも、感染症パンデミックにも、
原発事故にも、サイバー攻撃にも、必要
セーフティ ≠ セキュリティ

③ロジスティクス

日本人のロジスティクス軽視体質『失敗の本質』

- ・自然災害・大規模事故

支援物資、資材備蓄、ロジスティクスラインの確保

- ・戦争・テロ

兵站(ロジスティクス)の構築、兵器、弾薬、食料、兵士

- ・感染症パンデミック

医療資源、機材、防護服、マスク、治療薬、ワクチン

※オールハザード・アプローチの必要性

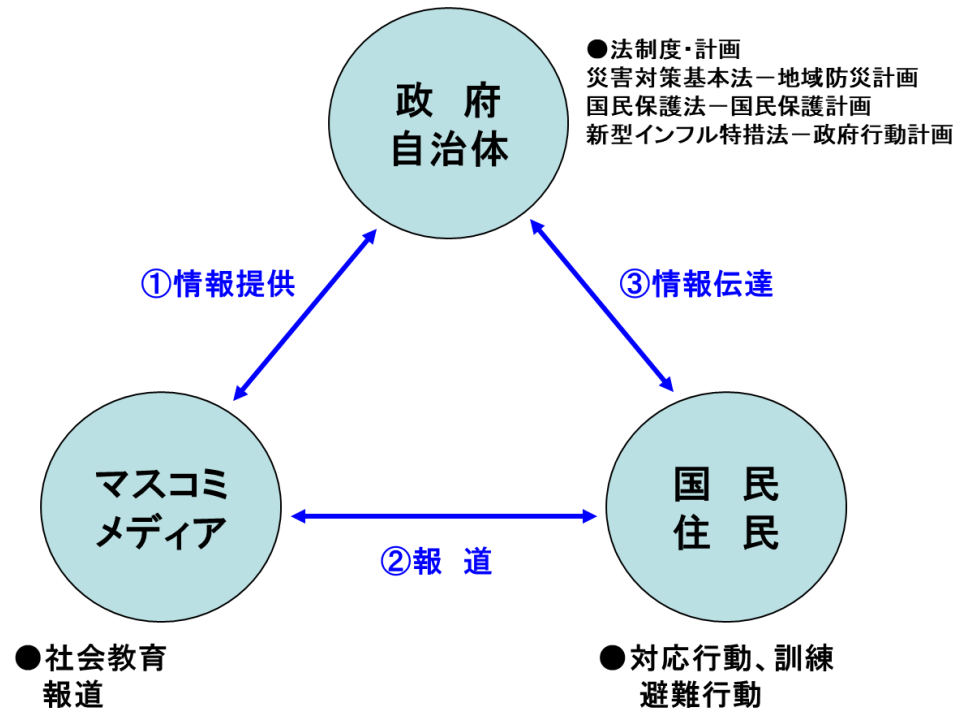
事前の準備(リスク・マネジメント)

事後の対応(クライシス・マネジメント)

④リスクコミュニケーション

福田(2020)

多様なリスクに関して、平常時から政府や自治体が問題提起し、メディア報道によって議題設定され、市民の間で議論されることによって、合意形成されて、政策決定に結びつけるコミュニケーションの過程。民主主義的なプロセス。



国民保護訓練の重要性

令和2年度

10月大分県国民保護訓練研修会

11月大分県国民保護実働訓練

内閣官房・都道府県・市町村

ステークホルダー

多機関連携

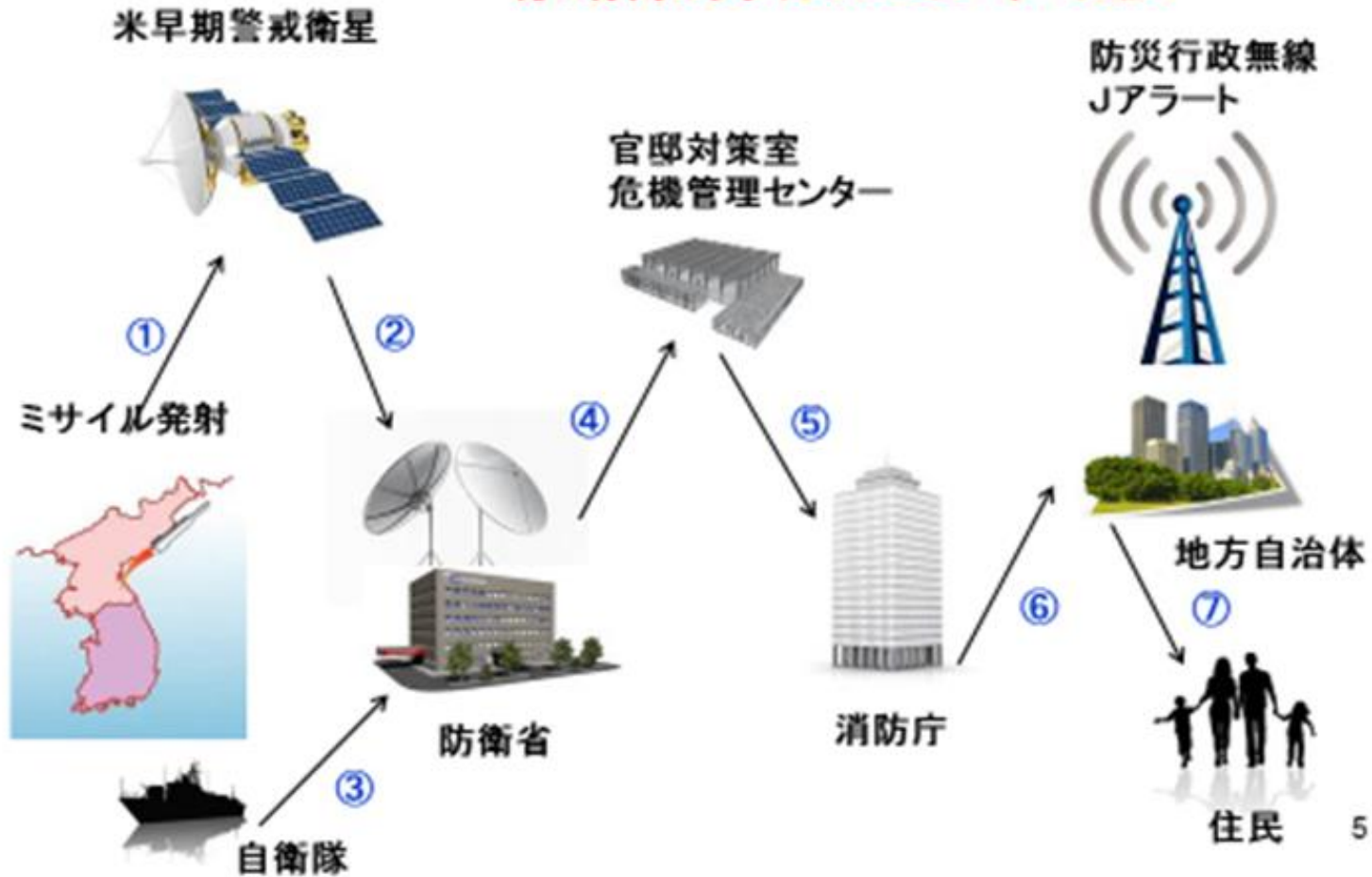
想定し、議論し、準備し、研修し、
訓練するリスクコミュニケーション



ミサイル発射時のJアラート情報伝達

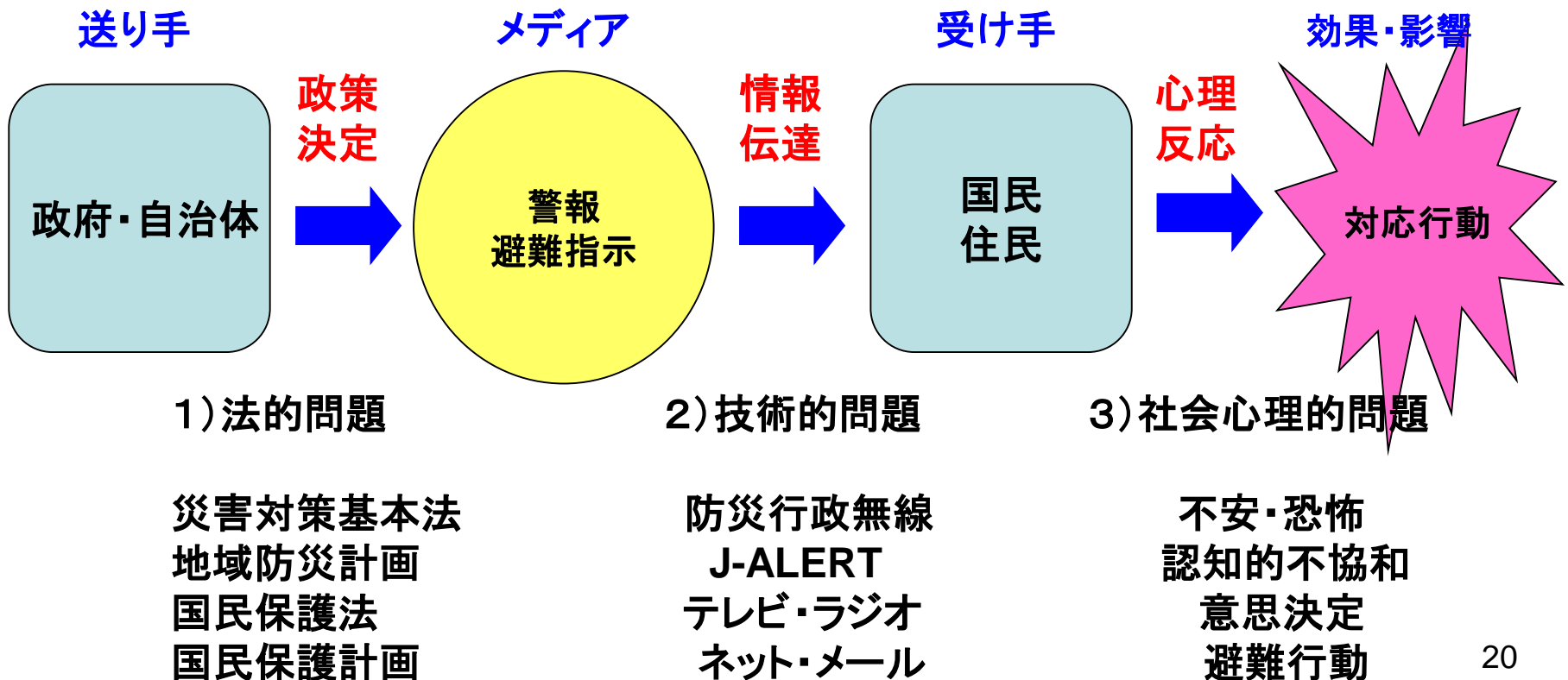
ミサイル発射に対するJアラートの情報伝達(福田:2012)

約10分間のクライシス・コミュニケーション

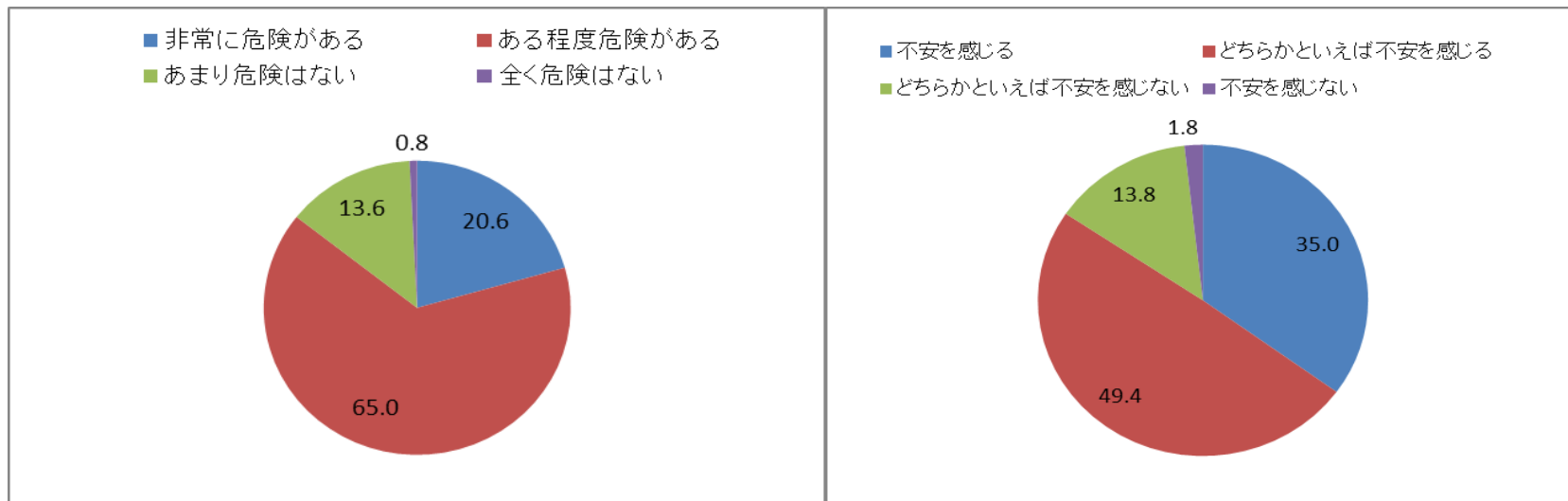


クライシス・コミュニケーション

危機(クライシス)が発生した段階において、組織や個人間で行われるコミュニケーション。危機から人々の生命を守るために行われる**警報**や、**避難指示**などによるコミュニケーション。(福田, 2010)



テロに対するリスク認知・不安 福田(2016)

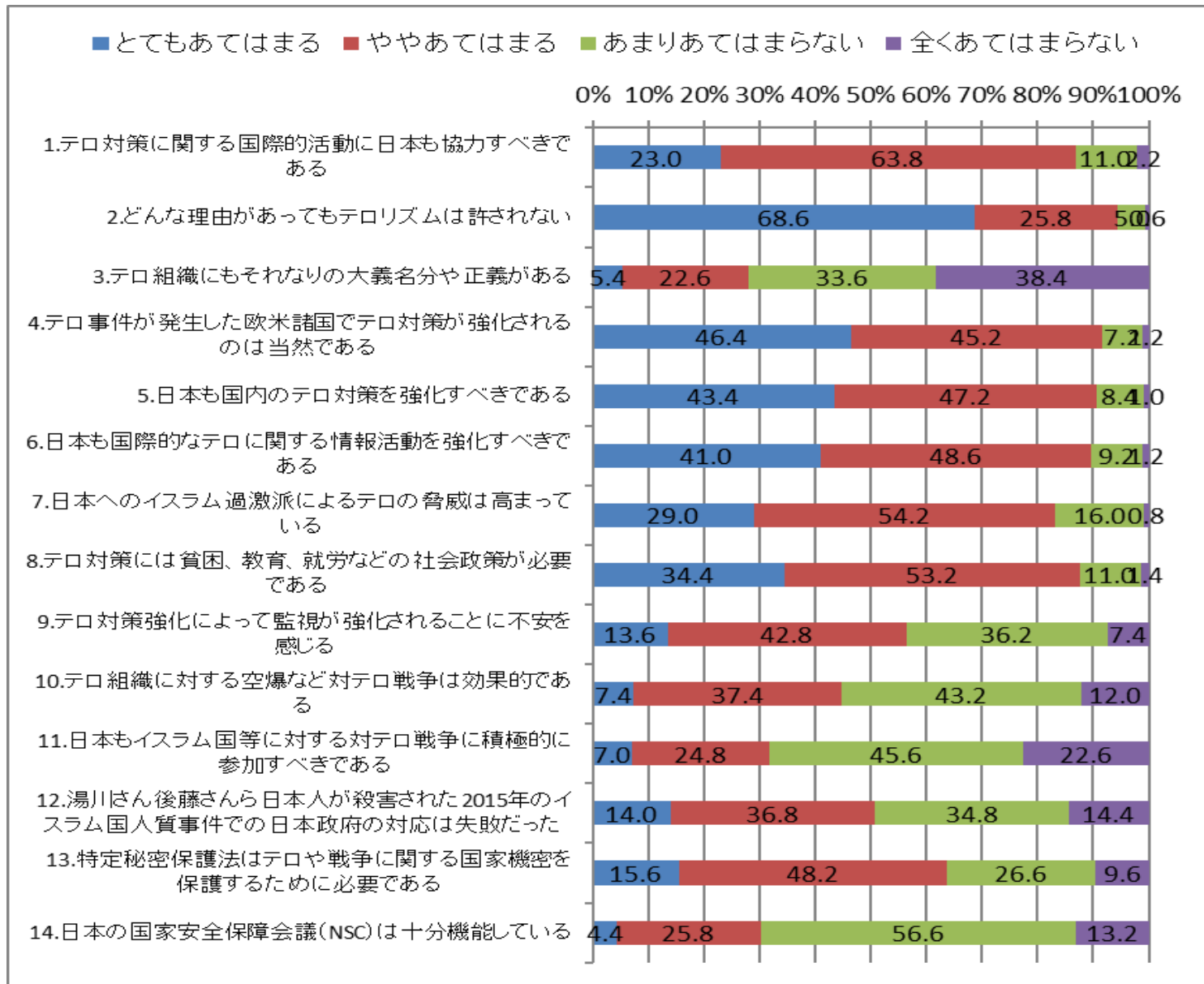


グラフ：
今の世界の情勢から考えて、日本国内においてテロが発生する危険がどの程度あるか。
テロへのリスク認知は極めて高い。

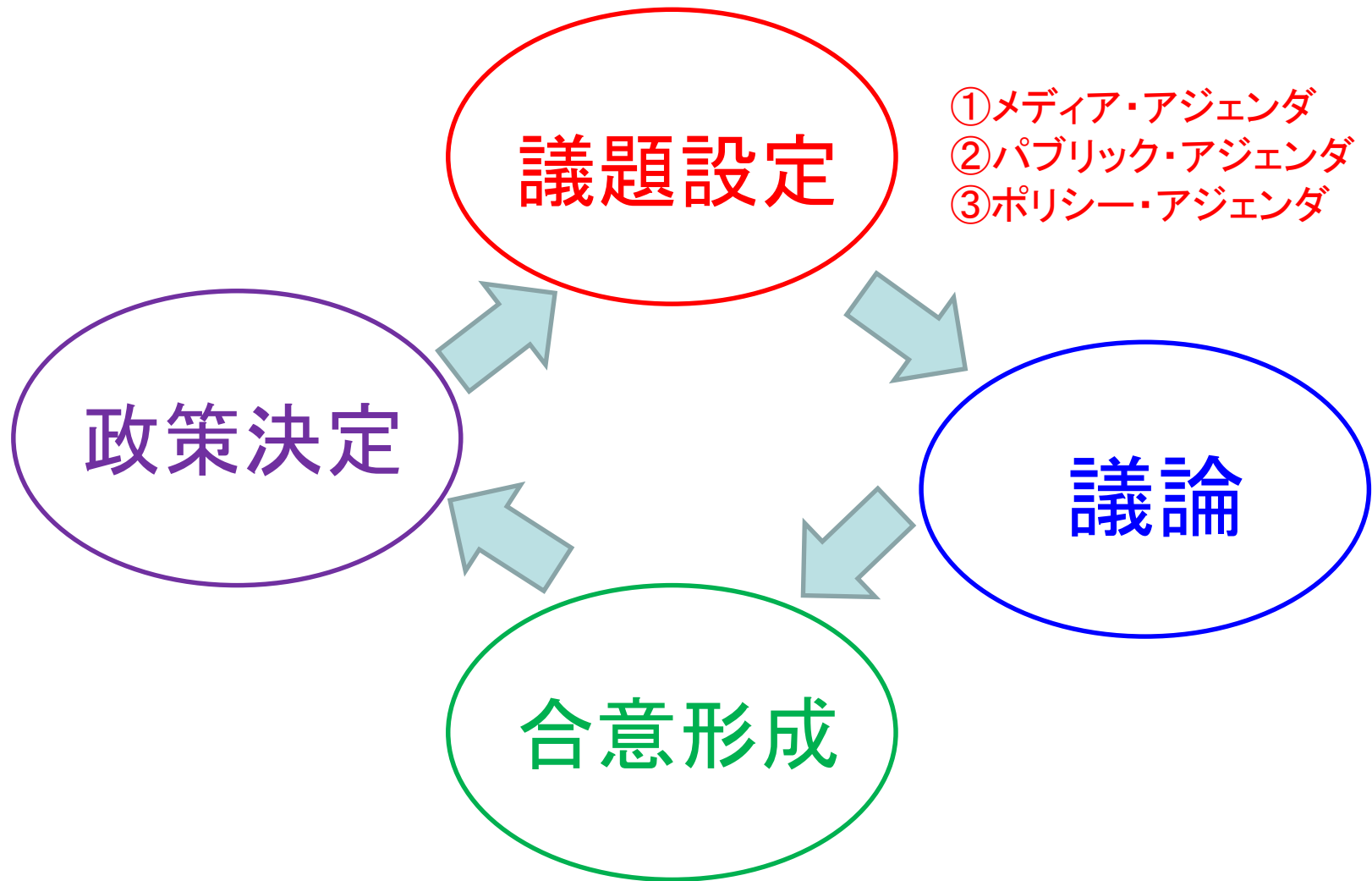
グラフ：
日本国内におけるテロの発生に対して、どの程度不安を感じるか。
テロへのリスク不安は極めて高い。

※ リスクコミュニケーションは「広報」ではない。インテリジェンス活動、「広聴」とも結びついた総合的な活動である。

日本人のテロリズムに対する意識 福田(2016)

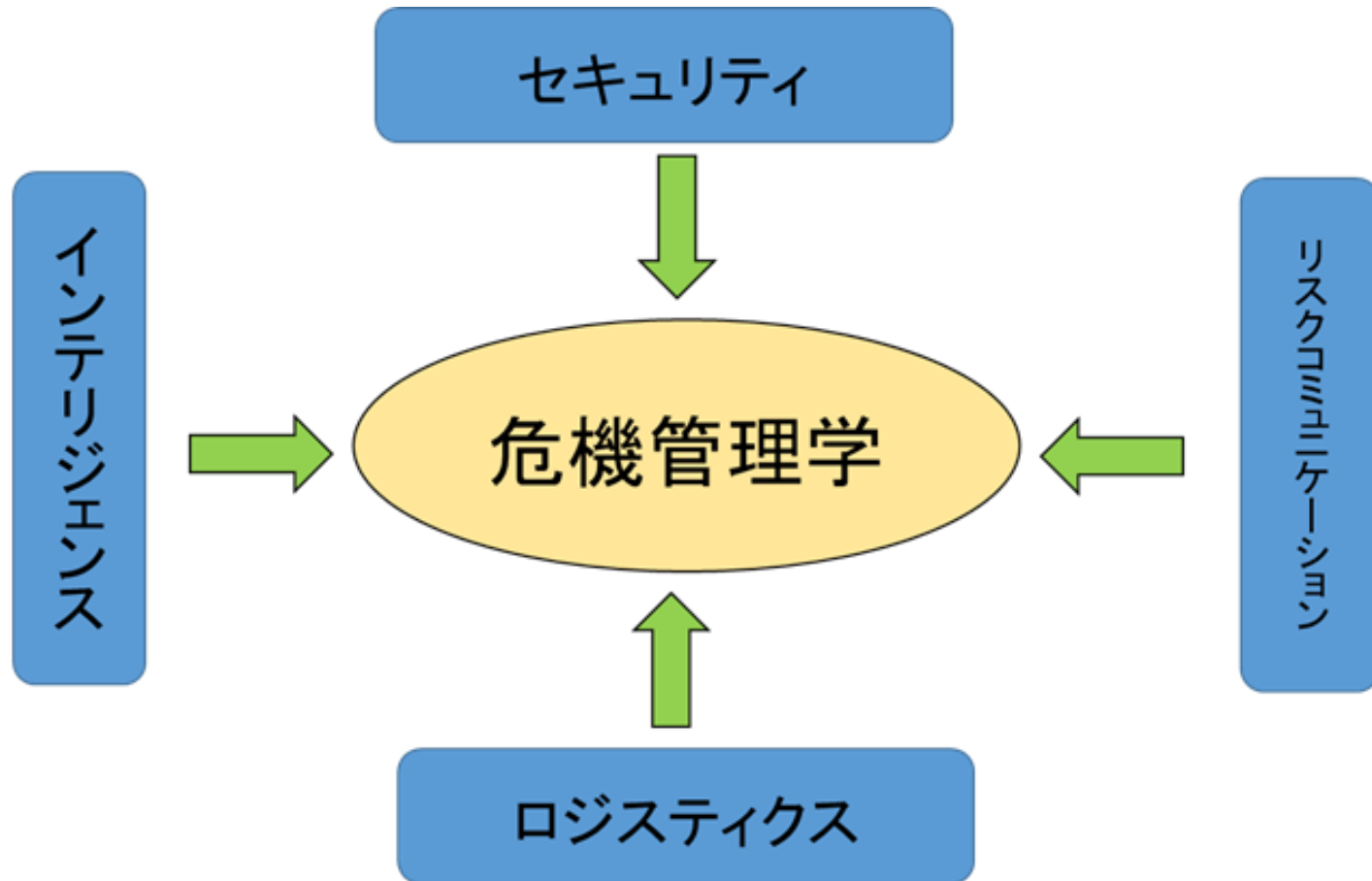


リスクの合意形成サイクル



※このサイクルを平常時において時間をかけて冷静に合理的に実施すること。

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



ばらばらに存在するのではなく、有機的に結びついている。

地方公共団体の危機管理構築にむけて

- 1) オールハザード・アプローチの危機管理体制
- 2) インテリジェンス能力の構築
- 3) セキュリティ体制のハブ機能 ～ 多機関連携
- 4) ロジスティクス体制のハブ機能
- 5) リスクコミュニケーションの実践 ～ 広聴の強化
- 6) 事前のリスクマネジメントの重要性
- 7) BCP・BCMの実践
- 8) 公助依存からの脱却、自助・互助・共助のバランス

ご清聴ありがとうございました。



詳細は、「[福田充研究室ホームページ](http://fukuda326.o.oo7.jp/)」へどうぞ。
<http://fukuda326.o.oo7.jp/>



『テロとインテリジェンス』
慶應義塾大学出版会



『メディアとテロリズム』
新潮新書



『リスク・コミュニケーション
とメディア』北樹出版



『大震災とメディア～東日
本大震災の教訓』北樹
出版